

第4段階 ガリラヤの大宣教

ガリラヤにおけるイエスの宣教の始まり

1. イエスは聖霊の力によってガリラヤに戻る

デイリージーザスニュース #049

ベーステキスト: ルカ 3.19-20; 4.14-15 (並行テキスト: マルコ 1.14-15; MT4.12; ヨハネ4.43, 45)

19 ヨハネが領主ヘロデを叱責したとき、ヘロデは兄弟の妻ヘロディアと結婚したこと、またその他ヘロデが行ったすべての悪事について叱責した。20 ヘロデは、そのすべての悪事に加えて、ヨハネを牢に閉じ込めた。

『イエスはヨハネが牢に入れられたことを聞いて、』彼は二日後にシカルを出発し、ガリラヤへ行きました。『そこでイエスは聖霊の力によってガリラヤに帰られた。そして、イエスについてのすばらしい知らせは、たちまち全地方に広まつた。

・イエスがガリラヤに来られたとき、人々は喜んでイエスを迎えた。なぜなら、イエスが祭り（過越祭）の間にエルサレムでなさったすべてのことを、彼らも注意深く聞いていたからであり、自分たちも祭りに行っていたからである。

イエスは神についての良い知らせを次のように宣べ伝えました。

15 「備えられた時が満ち、天神の王国はあなたに近づいています…それはまさにここにあります！私はあなたに、悔い改め続けること、つまり私に同意するためにあなたの心を永久に変え続けること、そして私がこの良い知らせであなたに宣言しているすべてのことを信じ続けることを命じます。

1

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルーク = ^L、ジョン = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤の斜体で表記されています**。旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤ
タイムライン	西暦30年8月中旬（第7月）
イエスの生涯	第4段階：ガリラヤの大宣教

第4段階 ガリラヤの大宣教

	A. ガリラヤにおけるイエスの宣教の始まり
タイトル	1. イエスは聖霊の力によってガリラヤに戻る

コメント：

今日の朗読で、DAILY JESUS NEWS はイエスの宣教活動の最も長い段階、つまりイエスがガリラヤで活動に集中した約 2 年間に踏み込みます。この朗読は、関連する並行した記述を 1 つの物語に「融合」することの利点を示す素晴らしい例です。4 つの福音書すべての情報をまとめると、ユダヤからガリラヤへ移るというイエスの決断の時期と状況がより完全に理解できるようになります。

の生涯の年表を説明するために使用している 3 つの「段階」には、福音書の多くの類似した内容が含まれています。これらは次のとおりです。

ステージ IV...ガリラヤの大宣教

ステージ VI...受難週

ステージ VII...イエスの復活と永遠の宣教。

の生涯の内容の約 3 分の 2 を占めるこの 3 つの段階のうち、「ガリラヤ大宣教」の段階は、「共観福音書」（マタイ、マルコ、ルカによる福音書）の焦点です。これら 3 つの福音書は、初期ユダヤ時代をほとんど無視し、ガリラヤ宣教を強調するという点で「同じ観点を共有している」（「共観」の意味）のです。

一方、ヨハネはイエスのガリラヤでの働きについてはあまり語らず、ユダヤでの宣教活動に集中しています。ヨハネは共観福音書の約 30 年後に、共観福音書にはない独自の資料でその内容を補うことを目的として福音書を書いたので、共観福音書との重点とアプローチのこの違いは完全に理にかなっています。

今日の朗読は「ガリラヤの大宣教」の期間の始まりです。この期間の資料を、イエスの 3 回のガリラヤ大巡回と、その 3 回の巡回に続くガリラヤ周辺の異邦人地域への 1 回の巡回を中心構成することにしました。イエスは 3 回のガリラヤ巡回を通じて、その地域のすべての人々に自ら福音を説き、すべての町や村を訪問してそこで宣教しました。

ヨハネはすでに、イエスがユダヤを去ることを決めたのは、洗礼者ヨハネの宣教活動と競合するのを避けたかったからだと語っています。その後、イエスはガリラヤへ向かう途中、サマリアを通過することを選択しました。イエスはシカルの町で神から与えられた約束を果たす必要があったのです。

シカルでの宣教活動が実り多い時期にあったとき、イエスに新たな知らせがもたらされました。洗礼者がヘロデ大王の息子ヘロデ・アンティパスに逮捕されたことを知ったのです。この知らせにより、

第4段階 ガリラヤの大宣教

イエスは自ら大衆伝道活動を始める必要性を強く感じました。なぜなら、もはやヨハネが群衆に悔い改めのメッセージを宣べ伝えることを期待できなかつたからです。

さらに、ヨハネの逮捕の知らせは、父がガリラヤに働きを移すようにとの指示を裏付けるものでした。イエスがユダヤに留まるのはもはや安全ではありませんでした。さらに、ユダヤはヨハネから1年以上の宣教を受けており、イエス自身も過去6か月間にわたつて伝道活動を行つてきました。イスラエルのもう一つの主要地域であるガリラヤの神の民も無視することはできませんでした。彼らにも福音が必要だつたからです。そこで、2日後、イエスはシカルの大リバイバルの現場を離れ、ガリラヤに向かいました。

ヨハネが中断したところから、イエスは聖霊の大きな力で悔い改めと信仰を説き始めました(マルコ1:14-15)。ユダヤではイエスの宣教は比較的目立たず、静かでしたが、ガリラヤではイエスが突如現れ、その地域全体を根底から揺るがすほどの衝撃を与えました。王が到着し、そのため、その王国はその地域の人々に最も近づいたのです。

このテキストには、イエスの宣教活動における最初の普遍的な命令が含まれています。それは、「悔い改め続ける」と「福音を信じ続ける」という二つの命令です。イエスによれば、これが命令#1です。(DJNを読み進めていく中で、キリストのすべての命令を注意深く書き留めていきます。準備をしてください!)

「適応」するにつれて、私たち自身の既存の考え方、態度、行動を常に変える必要があります。私たちは罪深く、イエスに忠実な奴隸です。したがつて、常に信じるには、常に悔い改めが必要です。

応用：

イエスは私たちと同じように、周囲の出来事に影響されました。イエスの人生におけるすべての重要な転機は、原因と結果の法則の結果であり、イエスが歩む一歩一歩に積極的に影響を及ぼしました。同時に、イエスの人生のあらゆる側面は聖書に預言されており、神自身の時間表の支配下にも置かれていました。イエスの人生では、神の支配と人間の決断や行動の因果関係の両方が完璧にバランスをとっていました。

がユダヤからガリラヤへ移つたときにも見られます。イエスと洗礼者ヨハネとの関係は人間的な要素であり、父なる神の指導力と召命に対するイエスの認識は神聖なものでした。この2つは完璧に調和して機能しました。

イエスはすべての点で私たちの模範です。私たちも神の絶対的な支配のもとに生きていますが、人間の原因と結果の絶え間ない影響の中で自由に動き回っています。神は私たちの生活のすべてを善のために、つまりイエスと同じように私たちのための神の永遠の目的を成し遂げるために使います。イエスが救世主として神の永遠の目的を完璧に果たしたので、私たちも自分の目的を果たせます。イエスがすべてを可能にしたのです。

第4段階 ガリラヤの大宣教

あなたは自分の人生に対する神の目的を達成する上で、道から外れたり、邪魔されたりしていると感じますか？絶望しないでください！イエスはあなたの完全な救い主であり主であるため、あなたに対する神の目的に逆らうものは何もありません。

心を尽くして彼を求めるなさい。何度も何度も彼の手に身を委ねなさい。彼に目を留めなさい。

ダビデはこう祈りました。「主は私のためにその計画を成し遂げてくださいます。主よ、あなたの慈しみは永遠に続きます。どうか、あなたのみ手のわざを捨てないでください。」詩篇 138 章 8 節

、あなたに対する神の完全な意志を開く鍵の両面です。